

今年の清明節は4月5日。意味を持ちます。

中国では3連休となり、先祖の墓参りをする日でもありません。友人もその日は家族で墓参りに行っていましたが、儒教の考え方を持つ中国人は墓参りをとても大事にしています。

中国の墓は郊外にある場合が多く、日本のサイズよりも大きい上、墓石に顔が書かれている墓地もあるなど日本とは一風変わった光景が見られます。日本と同様、墓前には花や果物、お酒などのお供物を置きますが、紙銭をお供えするという面白い習慣もあります。模造紙幣を作り、墓前で燃やすことで「被葬者が天国でお金を困らないように」とお金を天国に送るとい

意味を持ちます。日本の家系では先祖代々の墓に入る人が多いですが、夫婦別性の中国では墓には夫婦（両親）のみが入り、子供たちの墓は別で作るそうです。友人はこれから中国が抱える問題として、「1人っ子が多いために先祖の墓を管理することができなくなるのが心配だ」と話していました。

先日、シンガポールに行き、老人ホームやデイサービスを観察してきました。シンガポールは東京都と同じ面積を持ち、人口507万人。そのうちシンガポール国民が323万人で、移民が25%を占めています。高齢化率は2000年で8%

## 中国の在宅高齢者に類似

2030年には20%に達します。日本の高齢化率が7%から14%になるのに26年要したのに対し、シンガポールでは20年間足らずで、日本よりも高齢化速度が速くなっています。現在約500万人

の少数国家であるために労働力、高齢化問題は重要な社会問題となっています。老人ホームは公立施設がほとんどで、政府は現在63施設9300床を2015年には1万4000床まで増加させる計画ですが、待機者が多く施設が不足して

います。夫婦共働きが一般的なシンガポールでは両親との同居を奨励しており、75歳以上の高齢者がいる家庭では8割が家政婦を雇いました。視察先のデイサービス所長も日本の介護技術を導入したいので、提携できる日系企業の進出を期待していると激励を受けました。

ゲストハウス社長  
松山英樹



## 中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール  
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

いく動きもあります。シンガポールで普及している公立デイサービスを観察しました。現在3カ所で運営しており、各事業所80名定員で平日の利用料金は1人あたり800シンガポールドル(6万3000円)で国が80%を負担、自己負担は20%であるため常に満員の人気です。今後の計画では5キロ間隔でデイサービスを12カ所開設していく予定です。

治療、リハビリ、レクリエーション、運動、昼食、コーヒータイムとプログラムが充実しており、利用者を飽きさせない工夫が見られます。視察先のデイサービス所長も日本の介護技術を導入したいので、提携できる日系企業の進出を期待していると激励を受けました。